

# 熊野川懇談会

## 第7回 検討会 議事骨子

開催日時・場所 平成20年2月16日(土) 13:00~14:00 和歌山JAビル 第11会場  
出席者 委員9人、河川管理者等5人

第7回検討会では、河川管理者により、洪水流量等の変更に関する説明が行われ、その内容について審議が行われた。第7回検討会の議事骨子は以下のようである。

### <熊野川の洪水流量について>

主な確認事項は以下のとおりである。

- ・ 河川管理者により、流量観測の精度向上に伴う洪水流量の変更の経緯が説明され、概ね委員に了承された。
- ・ 洪水流量がこれまでの流量よりも小さくなるという変更の方向性が説明され、了承された。
- ・ 流下能力の評価がこれまでよりも小さくなることが説明され、了承された。
- ・ 変更内容については、以下の方法で周知されることが確認された。
  - 懇談会における提示済み資料の変更については、ホームページ上で懇談会資料の変更のお知らせを行い、さらに各変更箇所の頁においても、変更されたことがわかるようにする。
  - 変更内容については、数値が確定次第、各委員に送付する。

主な意見は以下のとおりである。

- ・ 熊野川の洪水を理解するため、流量に関しても説明を受けてきたが、審議で考えてきた流量よりも小さくなることは理解した。ただし、流下能力も小さくなっているので、土砂移動を考慮したうえで、河道断面のあり方を考える必要がある。  
→これまで懇談会では、過去の洪水について流量等も含め説明させていただいてきたが、実際の値はその数値よりも小さくなること、また、流下能力についても小さくなることを理解していただきたい。(管理者)
- ・ 洪水時の流速や土砂の堆積、侵食による河道断面の変化によってHQ曲線(水位と流量の関係式)が変わるということを、一般の人々に理解してもらうのは難しいのではないかと。  
→できるだけわかりやすく説明させていただく。(管理者)
- ・ 伊勢湾台風などの過去の洪水流量については、どのように評価されたものなのかを説明する必要がある。  
→伊勢湾台風については、現在痕跡等より調査を進めている。(管理者)
- ・ 洪水時の流量がこれまで説明された流量よりも小さくなるのが、短期的な維持管理や将来的な計画に及ぼす影響について教えてほしい。  
→維持管理については水位を対象としている場合が多く、影響はほとんどないと考えている。将来計画については、わかり次第報告させていただく。(管理者)
- ・ 断面が不足している(流下能力が小さい)ということなので、河道掘削の可能性も考えられる。熊野川の土砂管理を、流域全体を見据えた総合的な見地から考える必要がある。
- ・ この変更が「明日の熊野川整備のあり方」へ及ぼす影響についても、考えておく必要がある。